

学校だより 3月号

令和7年3月1日発行

和歌山市立楠見東小学校

未来は自分の足で切り拓く

学校長 塩谷 裕子



春の足音が聞こえてくる季節となりました。街のあちこちで桜が咲き始めると、人々の話題になります。和歌山城の桜も、今年もきっと見事だろうと、今から楽しみにしています。

さて早いもので、令和6年度もいよいよ最終の月をむかえました。卒業式や終業式が近づき、残りの日々がますます貴重に感じられます。3月の登校日数は、1年生から4年生までが18日、5年生は19日、6年生は、14日です。今のクラスで過ごせる時間は、もうわずかとなってしまいました。子ども達にもこのことを伝え、一日一日を大切に、楽しく充実した学校生活を送ってほしいと思います。

「世界には君以外には誰も歩むことのできない唯一の道がある。その道はどこに行き着くのか、問うてはならない。ひたすら進め。」(ニーチェ)

これからの道のりは、楽しいこともあれば、苦しいこともあるかもしれません。でもどんな道でも、歩み続けることが大切です。目の前のことに一生懸命に取り組み、少しずつ前へ進むことで、いつの間にか振り返ると大きな成長を感じるはずです。この一年で学んだこと、経験したことを大切にしながら、自信をもって次のステップへ進んでください。教職員一同、みなさんを応援しています。

17日には、62名の6年生が卒業します。卒業生と保護者の皆様に心からお祝い申し上げるとともに、子ども達への指導・支援に関わってくださった多くの方々に厚く御礼申し上げます。また、他の学年の子ども達も1年間の総まとめに取り組んでいます。進学・進級への大切な残りの日々に、変わらぬご協力・ご支援をお願いいたします。

